

For

(フォー)



Contents

- ビューティフルマインド、ご覧になりましたか?.....2・3
第74回アカデミー賞4部門獲得!
～彼はいつも探していた。数学的心理を、愛を、
そして本当の自分を～
- 四半世紀の精神科医療を語る.....4・5
- こころの青い森コンサートが開催されました.....6
- 男の自慢料理.....7
- 季節の花「パンジー」.....7

ビューティフル マインド



第74回アカデミー賞4部門獲得！

彼はいつも探していた。数学的心理を、愛を、そして本当の自分を…

求め続づけ、探しつづけ、生きつづけてきた……。研究に打ち込むあまり、自分の魂のありかさえわからなくなっていく1人の天才数学者。精神が極限状態に追い込まれ、壊れそうになる自分と闘いながら、やがてノーベル賞を受賞するまでの苦難の47年間を、この一篇の映画に凝縮した。彼は、いつも探していた。数学的心理を、愛を、そして本当の自分の心を。

「ゲーム理論」の土台を完成させ、その後の経済学に大きな影響を及ぼしたノーベル賞学者、ジョン・フォーブス・ナッシュ・ジュニアの伝記にインスピレーションを受けて作られたこの映画は、アカデミー賞の最優秀作品賞、監督賞、助演女優賞、脚色賞の4部門を獲得した。

時代は冷戦下のアメリカ。第2次世界大戦で洗練された数学的分析が暗号解読に役立ったことから、今なお張りつめた時代が、若き数学者たちに寄せる期待は大きかった。

この作品は、そんな緊迫した時代に生きる天才学者の危うさを描く一方、何かを求め続ける意志の強さがすべてを克服していくさまを力強く物語る。また、幻覚と現実の境を行きつ戻りつする主人公の心を、一種のサスペンスとして、きわめて映画的な手法で見せていく。

1947年9月、ジョン・フォーブス・ナッシュ・ジュニア(ラッセル・クロウ)は、ニュージャージー州にあるプリトン大学大学院の数学科に入学した。出身地のウエスト・バージニアで「数学の天才」と謳われた彼は、この年の栄えあるカーネギー奨学生だった。世の中に起きることは、ガラスの反射から曇りに勝つことまで、すべてがナッシュの頭の中では方程式になった。「すべてを支配する真理、真に独創的なアイデアをみつきたい」と、ナッシュは授業に出る時間も惜しんで研究に没頭した。人づきあいが下手で、女の子もろくに口説けないナッシュは、クラスメートたちからも第に変人扱いされるようになる。

ナッシュが目指すのは、マサチューセッツ工科大学(MIT)のウィーラー研究所だ。だが、行けるのは1人だけ。最大のライバル、ハンセン(ジョッシュ・ルーカス)が次々に論文を書いているのに、自分はまだテーマさえも見つからない。指導教授ヘリンジャー(ジャド・ハーシュ)からも心配されている。窓という窓に方程式を書きながら、焦燥感にさいなまれるナッシュを、ルームメイトのチャールズ(ポール・ベタニー)が慰める。チャールズは、ナッシュにとって唯一の理解者だった。

ある日、ナッシュは、クラスメートに誘われてプールバーにやってきた。そこに3人の女の子が入ってくる。そのうちの1人はブロンドで、際立った美人。まわりの男子学生の目はみな、そのブロンドに集中していた。そのとき、ナッシュに神の啓示のような衝撃が走った。



従来の競争理論に基づけば、男たちはブロンドを奪い合った末、誰もが彼女を手に入れられない。

しかし、もし男たちが自分の利益とグループ全体の利益を同時に追求して、ブロンドをあきらめてほかの2人を口説いたなら、誰もがいずれかの女の子を手に入れることができる。ナッシュはこれを定式化した。それは、150年間も定説とされてきたアダム・スミスの理論を覆す、単純で美しいナッシュ独自の理論の構築だった。

こうしてナッシュは切望したウィー

ー研究所へのパスポートを手にした。だが、そこでも彼は満足できなかった。数学者は、第2次世界大戦では暗号解明に貢献した。ソ連との冷戦下にあるこの時代に、何か自分にもできることはないのか。ナッシュの心に新たな焦燥感が生まれていた。そんな時、1人の男がナッシュに近づいた。諜報員パーチャー(エド・ハリス)だ。パーチャーはナッシュに、雑誌に隠されたソ連の暗号解読を依頼する。スパイになったナッシュは、世界の危機を救うため、その秘密の任務に心血を注いだ。ナッシュは新たな任務にもっと時間を費やしたいと願ったが、講師としてつまらない授業をこなさなければならなかった。ただ、その授業で聴講生のアリシア(ジュニファー・コネリー)と知り合ったことだけは大きな収穫だった。ナッシュの奇妙な言動にも、アリシアは純粋さを感じ、深い理解を示した。数学だけに明け暮

ってきたナッシュは、彼女と過ごす時間に初めて癒しを感じる。やがて、二人は結婚した。結婚後も、妻にさえ打ち明けず、秘密の任務は続いていた。アリシアが子供を身ごもったところから、ナッシュのプレッシャーはますます大きくなった。命の危険を感じる出来事も重なった。降りたくてもパーチャーは許さない。出没する怪しい人影はソ連側の暗殺者なのか、それとも国防省の監視なのか。ナッシュは恐怖におののいた……。

ナッシュの精神は完全に冒されていた。コントロール不可能な妄想の世界に、自分を見失っていくナッシュ。精神科のローゼン医師(クリストファー・ブラマー)の下した診断は精神分裂病だった。苦しい治療の効果もはかばかしくない。アリシアはそんなナッシュを、二人が出逢った町プリントンに連れて帰る。このまま人間として朽ち果ててい



くのか。それとも立ち直れるのか。母校プリントン大学に抱かれるように暮らしながら、ナッシュの静かで長い闘いの日々が始まった……。

《映画を観ていたら

なぜか知らないうちに……。》

この映画を観た人の感想は二通りに別れている。「あまり感動しなかった」という人と「感動した」という人である。

精神分裂病の方を知る私にとっては、久しぶりの感動であった。現在、涙腺がゆるくなるおじさんの年齢に達したせいもあるのだろうが、後半になり隣にいる妻に感じられぬよう目が疲れたふりをして涙をぬぐうのに一苦勞であった。(二日酔い気味であったことはあまり関係ないとは思わが)

この病気の病気たる所以は、この病気を患っている多くの方がそうであるように病気と認識できないところにある。

その病気を優秀な学者でもはじめは認識することが難しいのである。彼が幻覚・妄想との戦いに挑み、病気を認識することによって現実と幻覚・妄想の世界との区別していく過程が印象的であった。

映画館を出て妻にも怖々聞いてみた。「いい映画だったね」と。

妻も答えてくれた。「うんいい映画だった」と。

この映画は5月24日で上映が終了しました。これからはテレビ放映、またはビデオレンタル開始により観る機会があると思いますので、是非ご鑑賞下さい。



この四半世紀における 精神科医療の進化は…



千葉 潜

医師免許を取得して精神科医の道に入り込んだのが24年前でした。ちょうど精神科医療の激変期に遭遇した感じで、この4半世紀が精神科医療のエポック・マーク(時代の節目)だったと思います。私は精神科病院を運営する一家に生まれましたから、小さい時から病棟で患者様に遊んでもらっていました。それだけに、この変化は人一倍大きなものに思えます。でも、一番変わったのは、社会の精神科疾患の患者に対する認識ではないでしょうか？ もちろん、偏見蔑視の問題はまだ十分に払拭されたとは言えませんが…。(病院長・医療法人青仁会理事長)



高館 純子

精神病に罹った事で、当事者自身やご家族の失望感は想像を絶するものと思われます。しかし、現在は薬物療法に加えてリハビリテーションの有効性が認められており、各種のリハビリテーションにより地域社会の中で自己実現を図っておられる方を、私もたくさん見てきました。周囲の事に傷つき易い心優しい彼ら達は、ようやくこの20年という歳月を掛けて、当たり前に得られるべき権利を手に入れようとしているところなのではないでしょうか。今後もリハビリテーションを支える一員として、「共に歩んでいけたら」と思っています。(診療課主任、精神保健福祉士)



江刺家 幸枝

学生時代には精神科の実習が苦痛で、「私は絶対に精神科には勤務しない!」と心に決めていたんですが、「縁は異なるもの」ですよ。自分が今こうして精神科に勤務しているんですから。国立病院と民間病院という違いが大きいこともありますが、この15年間だけでも精神科看護が大きく見直されていますね。毎年確実に変化しています。以前は「一カ所に閉じこめておく」という感覚でしたが、今では「社会に戻る」ことを目標にケアしています。そのためのケアの充実と看護者の意識改革が今の私達のもっとも大きな課題ですね。(看護課長)

精神科医療は、この四半世紀(25年)の間に大きく変わり進歩しています。治療の場としての病院内部の構造や環境だけでなく治療の方法やあり方、そして社会全体の意識が変わってきたのです。看護やリハビリテーションなどの立場からこれらの時代をふりかえってみてもらいました。



藤村 久男

20年ほど前の精神科病院に限らず病院という所は、まだそれほど患者様のために快適な環境を提供するという考え方自体があまりなかったのではないのでしょうか。精神科病院においては、「管理する」ために景観とかアメニティといったものは軽視されて来たように思います。今では環境が以前の暗いイメージから脱却し明るい感じになり、アメニティの充実にも努めるようになりました。病棟内や病室のあちこちに花などが飾られていて、雰囲気はかなり変わってきました。精神科医療と同時進行の形で、精神科療養環境がいい方向へと変わってきているのではないのでしょうか。(庶務管理課長)

あえてよかった **こころの** 人が心が好きだから
青い森コンサート

青山荘地域生活支援センター
 大嶋 範子

『こころの青い森コンサート』に参加して

「障害の有無に関わらず、県民が心を寄せ合い、多様な交流からノーマライゼーションを推進し、21世紀のスタートをかざる青森県のシンボリックなコンサート」である、『こころの青い森コンサート』が平成13年10月14日に弘前市で開催され、私たち「八幡馬踊りっこチーム」も参加しました。

平成12年春、このコンサートに精神障害者の県南ブロックも参加することが決まり、6月には演題を「八幡馬」の歌と踊りと決めました。「八幡馬」は八戸地区では馴染みの盆踊りですが、簡単に発表出来るわけではありません。見栄えのする踊り方や、構成等を南部手踊りの第1人者である西塚先生に教えていただきました。

100人の参加を目標と決めたものの、泊りがけで出かける不安もあり、多くの参加者を集めるのは多分無理だろうと正直なところ思っていました。でも、とにかく、やると決めたのですから、出発です。各施設ごとに歌と踊りの練習が始まりました。13年8月、初めての合同練習、あすなる交流会（県内回復者交流会）での発表。何回か繰り返される合同練習。その間に関わっているみんなの意識が少しずつ変わってきたように思います。「みんなで行こうよ！」と。



家族も、ボランティアも一緒です。結局200名を超える参加者が集まり、参加チームの中でも1番の大所帯となりました。前泊者も150人を超えました。前日の夜は碇ヶ関で大宴会（もちろん酒は出ませんが）となり、カラオケを歌い、親睦を深めました。

コンサート当日、緊張と前日からの疲れと共に会場に入りました。夢中で歌い、踊った数分間でした。今までで一番上手くできました。

このコンサートで得たもの、たくさんあります。参加した皆さんの力、エンパワメント、未経験のことに向かい、長時間緊張を持ち続け、急な変更もさらりとやってのけました。最も苦手で、不得意と思われていたことだったのに、出来る。すごい力を持っているのだと改めて知らされました。また、各施設間、関係者間の連携のすばらしさ。そして参加者全員が一つになれた実感。

1年4ヶ月、480日という時間は、大きく成長させてくれました。ごくふつうに地域に入り、ごくふつうに地域の中で生活できる、地域の人たちもごくふつうに関わってくれる。そんな社会の入り口に立たせてくれたのかもしれない。



男の自慢料理

《 青椒肉絲 》

チンジャオロース



- ①牛肉は炒めているうちに細くならないように繊維に沿って細切りにする。
- ②牛肉に①を加え、手でムラなくもみこんで下味をつけておく。
- ③ピーマンは細切りにする。
- ④ねぎは縦半分に切り、芯を取り除いて、斜めに細く切る。
- ⑤ボウルに②を入れ、合わせ調味料を用意する。（混ぜ合わせる）
- ⑥③の片栗粉を水で溶いて、水溶き片栗粉を用意する。
- ⑦中華鍋またはフライパンにごま油を熱して牛肉を入れ、ほぐしながら炒める。肉の色が変わり始めたらピーマンとねぎを加え、強火で手早く炒める。

●材料(4人前)

牛モモ薄切り肉(焼肉用)...	300g
オイスターソース	大さじ1/2
酒	大さじ1/2
ごま油	大さじ1/2
ピーマン	6個
ベルピーマン(赤)	1個
〃(黄)	1個
ねぎ	1本
オイスターソース	大さじ2 1/2
しょうゆ	大さじ2
酒	大さじ1
豆板醤	小さじ1
おろしにんにく	1片分
片栗粉	小さじ2
水	小さじ2
ごま油	大さじ2



⑧油がなじんだら⑤の合わせ調味料をジャッと回し入れ、水気を飛ばすように全体に絡める。

⑨⑥の水溶き片栗粉をもう一度よく混ぜ合わせて、少しずつ様子を見ながら流し入れて混ぜ合わせ、汁気をとろりと絡ませて、器に盛り付ける。



〈青森病院男性職員力作〉

花ことば

“花”という言葉からは、誰でも“美しさ”というものを考えるのではないのでしょうか。同時にどこどなくロマンチックな香りも感じられます。花ことばは、そんな花の美しさが、ギリシャ神話やローマ神話、あるいは故事などと結びついて生まれました。

パンジー <花期 春～夏> 花ことば……私を思え

三色スミレと呼ぶほうが親しみのもてる花です。最近では多くの家の庭先で観ることが出来ます。紫、黄、白の三色をまじえた花が咲くところからつけられた名まえです。ふつうの花は、直径5センチくらいですが、10センチを超える大輪のもの、1センチほどの小輪のものもあります。

花色の美しさと愛らしさから、若い人たちの間では“恋人に贈る花”として知られていますが、これにはつぎのような伝説があるためです。

人里はなれた静かな谷間に、香りのよい小さな花が咲いていました。彼女はつましく、雑草たちに囲まれて、その狭い谷間を永遠の住まいとして楽しげに花を咲かせていたのです。

ある日、その谷間に愛の使命をもったエンゼルが降り立ちました。エンゼルは淡い芳香をたどると、小さな花を見つけました。エンゼルは地上にもこんなにも愛らしい花があるのか、と驚きの声をあげました。そして、その驚きに偽りは無い証明にといつて清らかなエンゼルの唇を触れたのです。それ以来パンジーは、エンゼルの使者として愛と喜びの便りを告げるために、世界の果てまで飛び立つようになったというのです。



私達の理念

みんなのために

すべての人達に、分け隔てない最善の医療を提供するよう努め、
社会のニーズに応じて、自分達の出来る事を、実直に行っていきます。

あなたのために

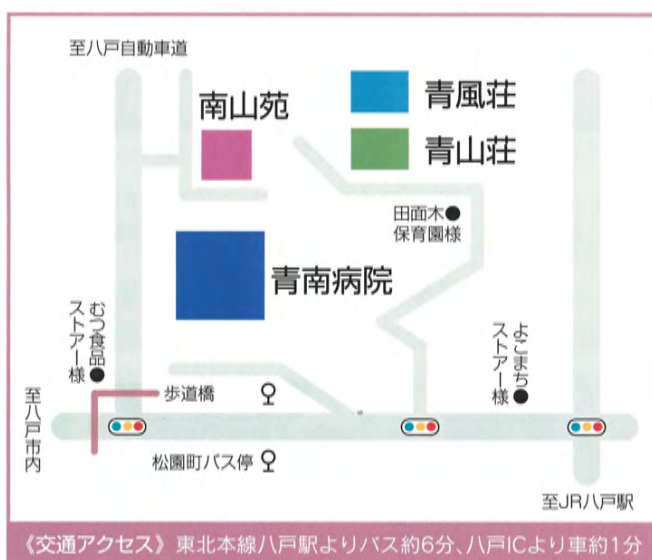
利用者本位を基盤とした、こころ暖かな医療環境と
安心して受けられる安全な医療の提供に努めます。

わたしのために

自分達の仕事に誇りと責任を持ち、
自らに満足のいく仕事内容であるよう専心いたします。

[診療案内]

〈診療科目〉	〈受付時間〉	〈休診〉
精神科 神経科 心療内科 内科	8:30~11:30 午後は予約診療と なります。	土曜日午後 日・祝日



医療法人 青仁会

精神科・神経科・内科・心療内科「青南病院」☎27-2016

精神障害者生活訓練施設「青山荘」☎27-6638
青山荘精神障害者地域生活支援センター

精神障害者福祉ホーム「青風荘」☎27-7658

訪問看護ステーション「五福」☎41-1622

介護老人保健施設「南山苑」☎27-3027

意欲のある職員を募集しています。



Photo by HISOMU CHIBA

発行者／医療法人青仁会 青南病院
千葉 潜

発行日／平成14年7月1日